

ターミナルケアについての 文献研究

医中誌データベースによる
1983から2007までのデータ分析

和光大学 現代人間学部
研究生 孫波



内容

- ◆ 1 研究目的
- ◆ 2 研究対象
- ◆ 3 分析の手順
- ◆ 4 分析の結果
- ◆ 5 考察
- ◆ 6 終わりに





◆ 1 研究の目的

近年、人に対するターミナルケアの関心が次第に高まりつつある。患者の生命を延ばすことよりも、身体的苦痛や精神的苦痛を軽減することをより重視している。

ターミナルケアを専門に行う施設はホスピス(hospice)ともよばれる。ホスピスは、基本的には死期の近い患者を入所させて、延命のための治療よりも身体の苦痛や死への恐怖をやわらげることを目的とした、医療的・精神的・社会的援助を行う施設である。

日本においては近年、ターミナルケアとホスピスについての研究も急速に増えてきている。

本研究では看護の観点から今現在の日本のターミナルケアとホスピスについて医中誌データベースによる1983年から2007年までの25年間に発表された論文の書誌データを分析する。





◆ 2研究対象

医中誌のアドバンスド・モード(Advanced)で1983年～2007年の間の文献を対象として、検索していく。

医中誌とは「医学中央雑誌」の略で、日本国内発行の医学、薬学、歯学及び看護学、獣医学などの関連分野や大学の紀要、研究報告など、定期刊物約4700誌から、約560万件の文献を収録した医学文献データベースである。



検索式・件数

- ◆ #1 (看護 or 看護) 292,291
- ◆ #2 (ターミナルケア or ターミナルケア)
15,130

- ◆ #3 (ホスピスor ホスピス) 5,147
- ◆ #4 #2 or #3 17,064
- ◆ #5 #1 and #4 9,241

最終の検
索件数

◆ 3 分析の手順

- 1) テキストの基本情報(1)、(2)
- 2) 頻度分析
- 3) 係り受け頻度分析
- 4) 評判抽出
- 5) 言葉ネットワーク
- 6) 注目語情報



◆ 4 分析結果
テキストの基本情報(1)

項目	値
総行数	9241
平均行長(文字数)	51.9
総文数	67377
平均文長(文字数)	7.1
述べ単語数	127154
単語種別数	11914

表1-1

研究数は増加傾向にある。2001年から論文の数が大量に増えてきた。しかし、2006年から論文の数が減少傾向担っていることが図からわかる。

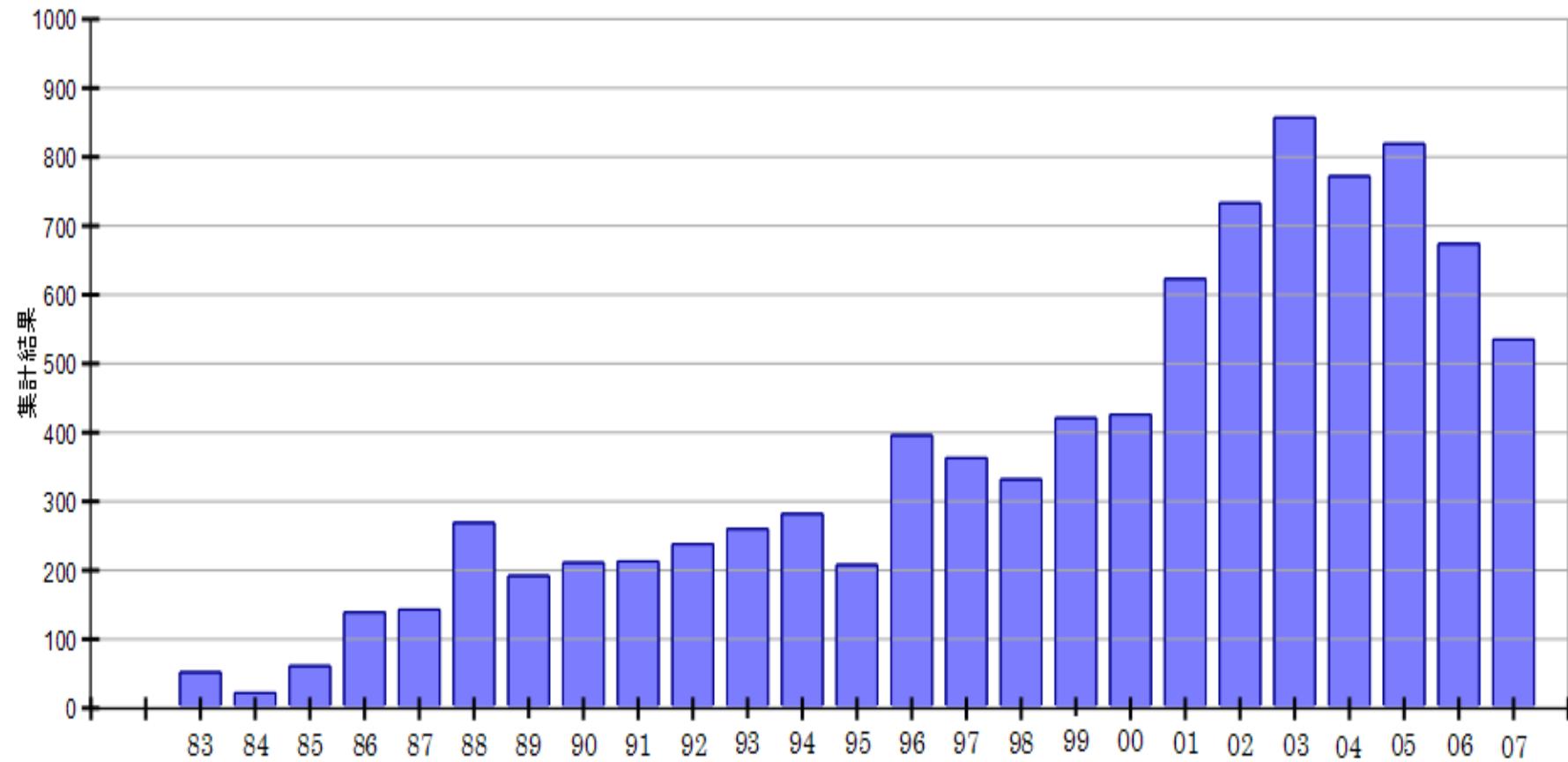
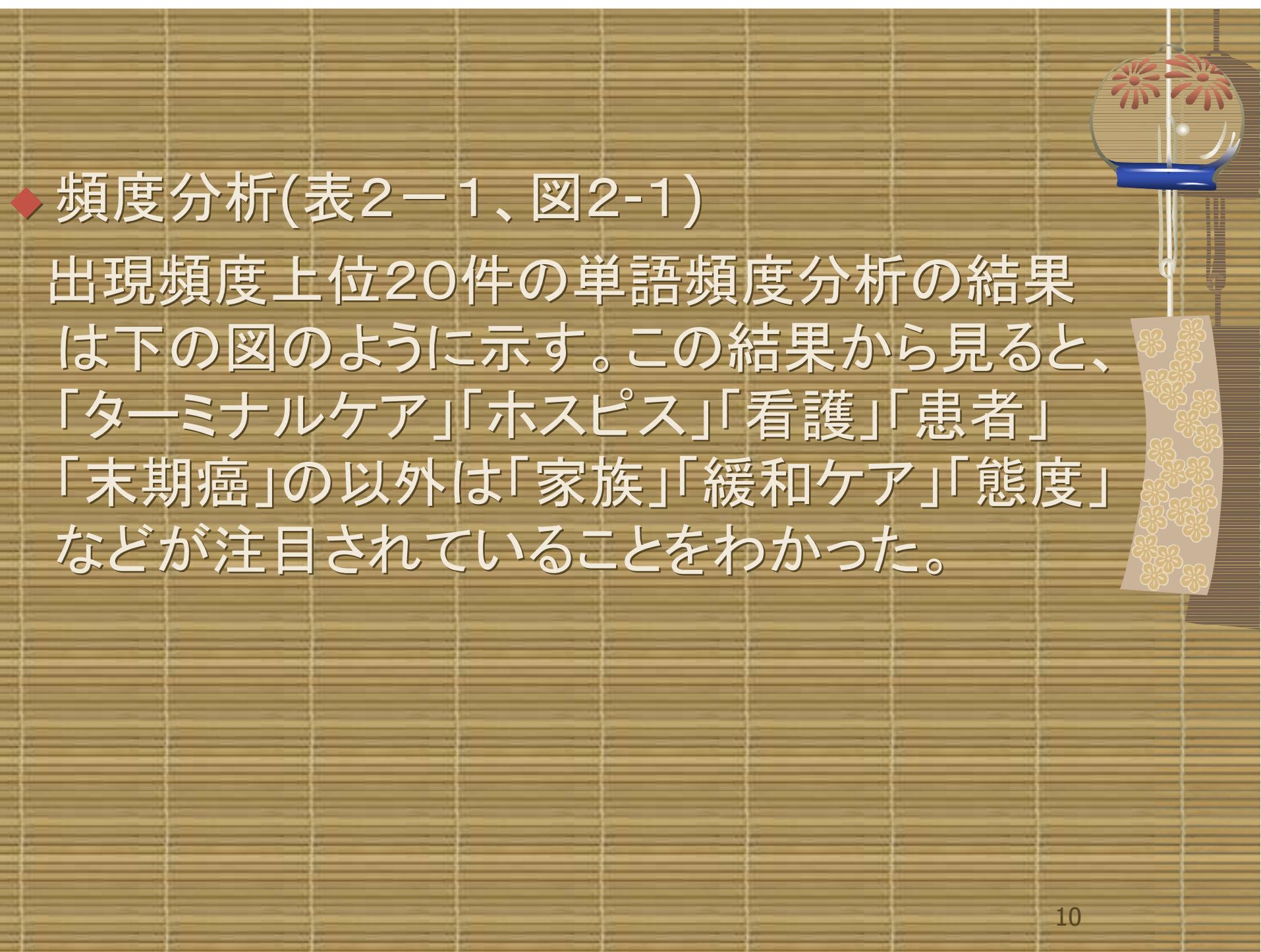


図1-1



◆ 頻度分析(表2-1、図2-1)

出現頻度上位20件の単語頻度分析の結果は下の図のように示す。この結果から見ると、「ターミナルケア」「ホスピス」「看護」「患者」「末期癌」の以外は「家族」「緩和ケア」「態度」などが注目されていることをわかった。



単語	品詞	頻度
ターミナルケア	名詞	7321
看護	名詞	4159
癌看護	名詞	1880
患者	名詞	1818
末期患者	名詞	1673
終末期	名詞	1487
家族	名詞	1348
悪性	名詞	1315
緩和ケア	名詞	1293
在宅介護	名詞	1189
死	名詞	1146
看護師	名詞	1086
ホスピスケア	名詞	1080
腫瘍	名詞	1052
ホスピス	名詞	1010
ケア	名詞	973
癌患者	名詞	828
態度	名詞	826
家族看護	名詞	753
考える	動詞	668

表2-1

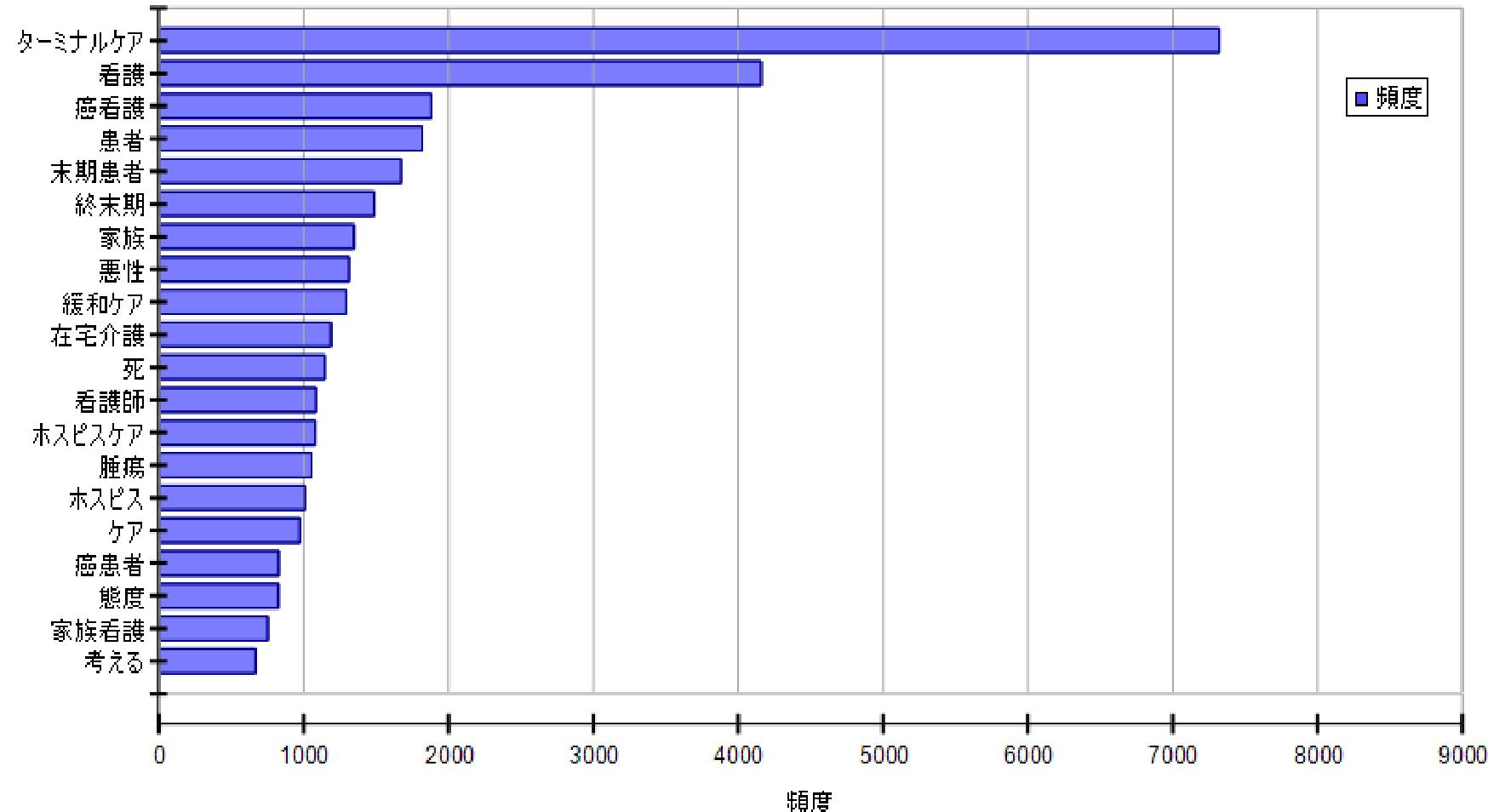
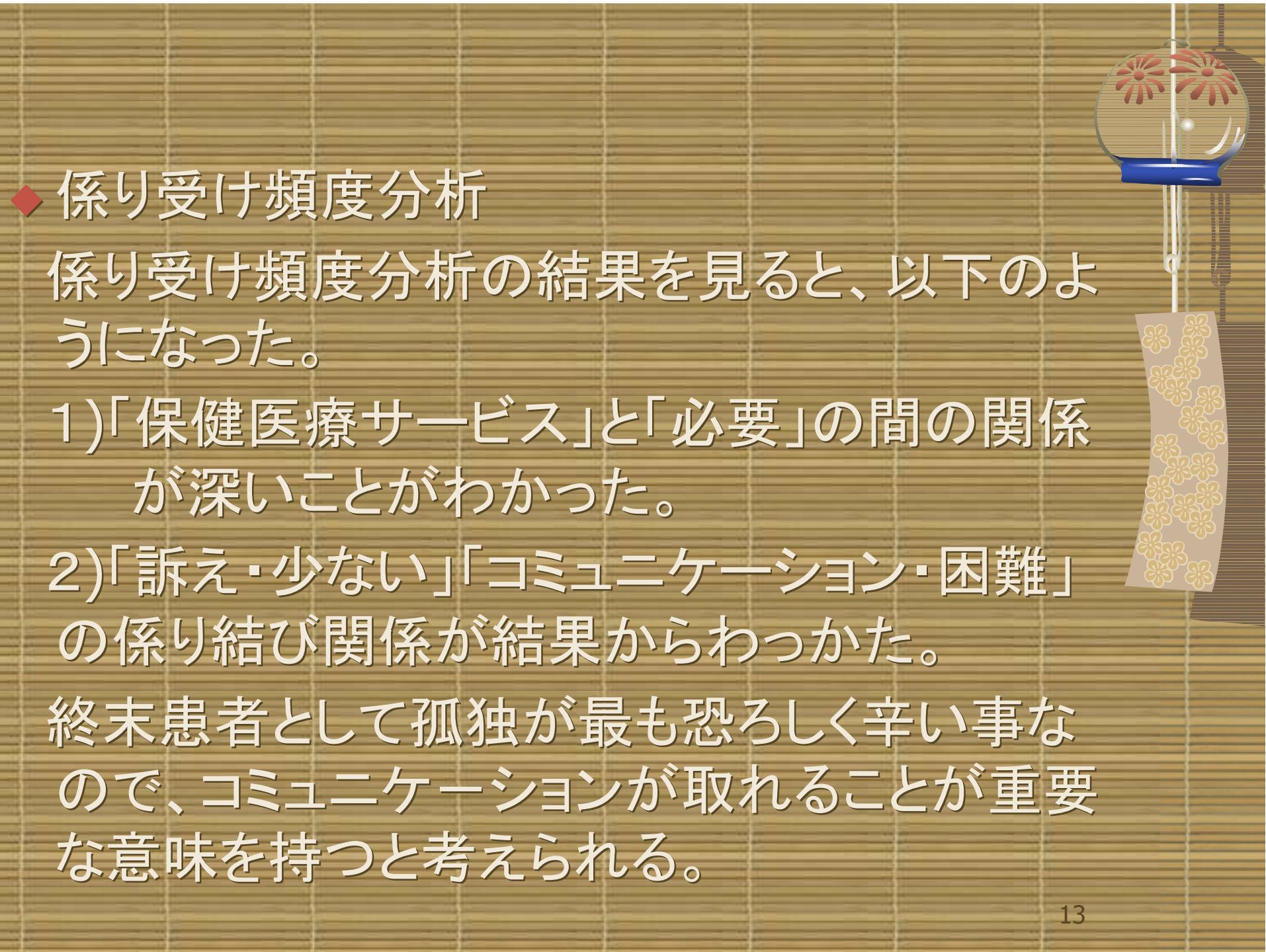


図2-1



◆ 係り受け頻度分析

係り受け頻度分析の結果を見ると、以下のようにになった。

1)「保健医療サービス」と「必要」の間の関係
が深いことがわかった。

2)「訴え・少ない」「コミュニケーション・困難」
の係り結び関係が結果からわかった。

終末患者として孤独が最も恐ろしく辛い事なので、コミュニケーションが取れることが重要な意味を持つと考えられる。

■ 頻度

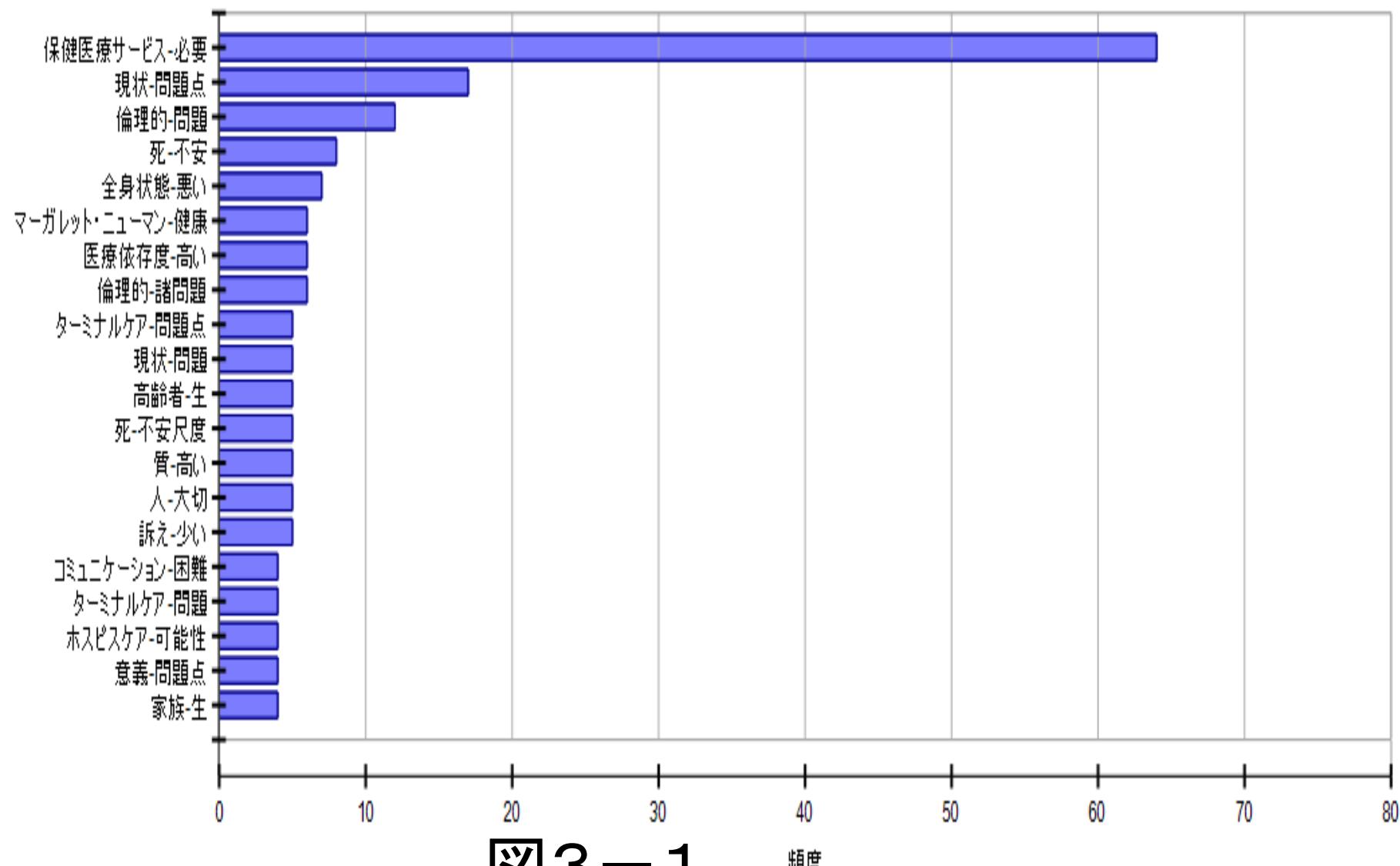


図3-1

頻度



◆ 評判抽出(表3-1、表4-1)

いいイメージで語られる言葉、悪いイメージで語られる言葉を抽出する。それぞれを好評語と不評語のランキングを作成する。結果から見ると、「患者」、「死」、「家族」などが肯定的、否定的の両方に出現している。



単語	Positive	Negative
要 求	65	0
保 健 医 療 サ ー ビ ス	64	0
死	36	-9
患 者	24	-25
援 助	15	-5
技 術	13	0
看 護	13	-3
ケ ア	11	-5
人	9	0
展 開	9	0
看 取 り	7	0
理 論	7	0
家 族	7	-6
ターミナルケア	6	0
マーガレット・ニュー	6	0
基 礎 知 識	6	0
入 浴	5	0
対 応	5	-1
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	5	-4
医 療	4	0
患 者 ケ ア	4	0
緩 和 ケ ア	4	0
生 活	4	0
全 科	4	0

表3-1



単語	Positive	Negative
患者	24	-25
道	0	-13
事例	4	-10
死	36	-9
全身状態	0	-8
症状コントロール	0	-7
要因	1	-7
家族	7	-6
ケース	1	-5
疼痛コントロール	2	-5
訴え	4	-5
ケア	11	-5
援助	15	-5
液質	0	-4
緩和	0	-4
介護者	1	-4
生命	2	-4
コミュニケーション	5	-4
コントロール	0	-3
家族対応	0	-3

表4-1

◆ 言葉ネットワーク(図4-1)

分析条件

- ①共起関係を抽出
- ②オリジナル設定
- ③行単位で共起
- ④最低信頼度50
- ⑤2回以上出現する共起ルールを抽出
- ⑥単語フィルタは「苦痛」「ストレス」「家族」を含む



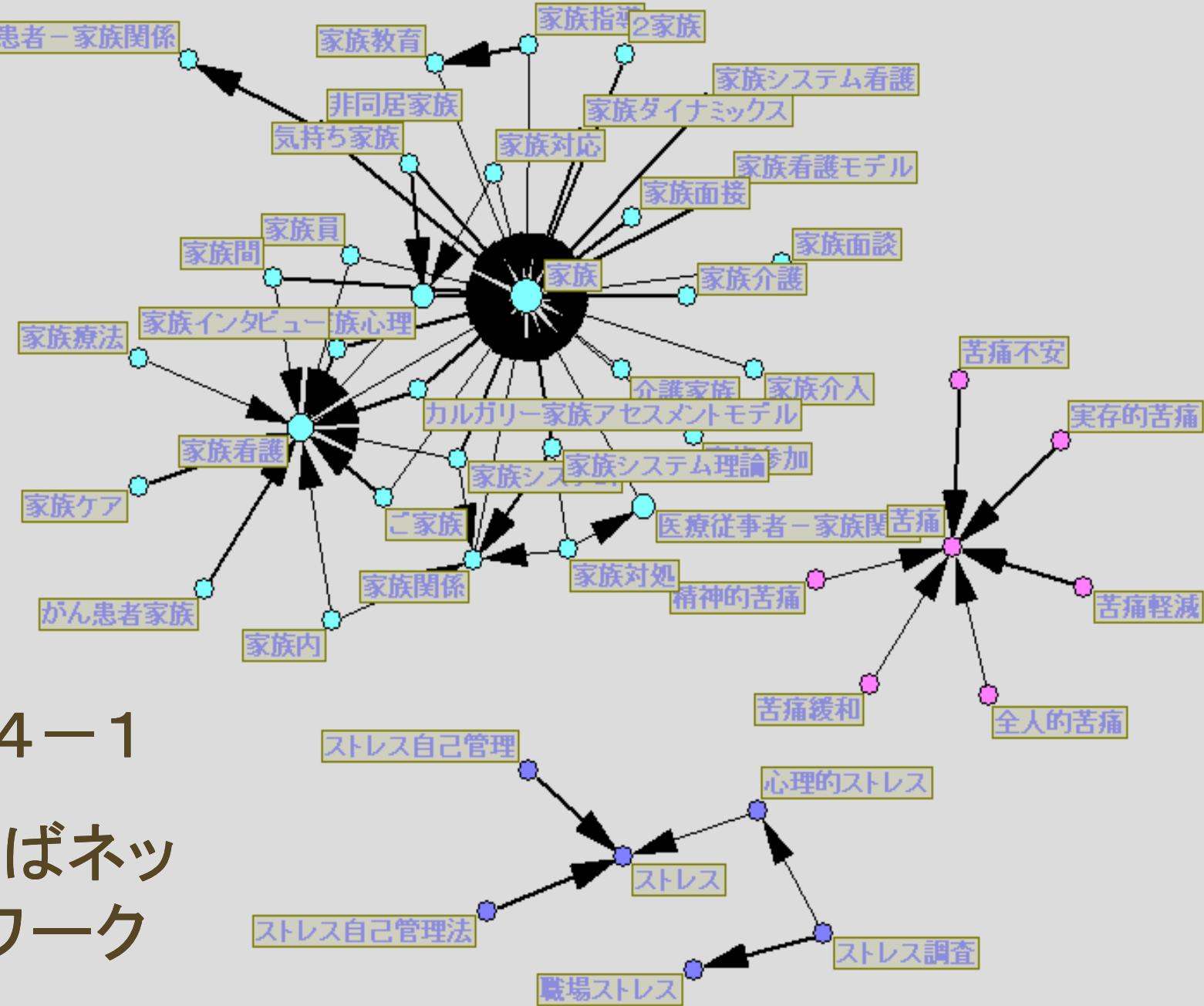


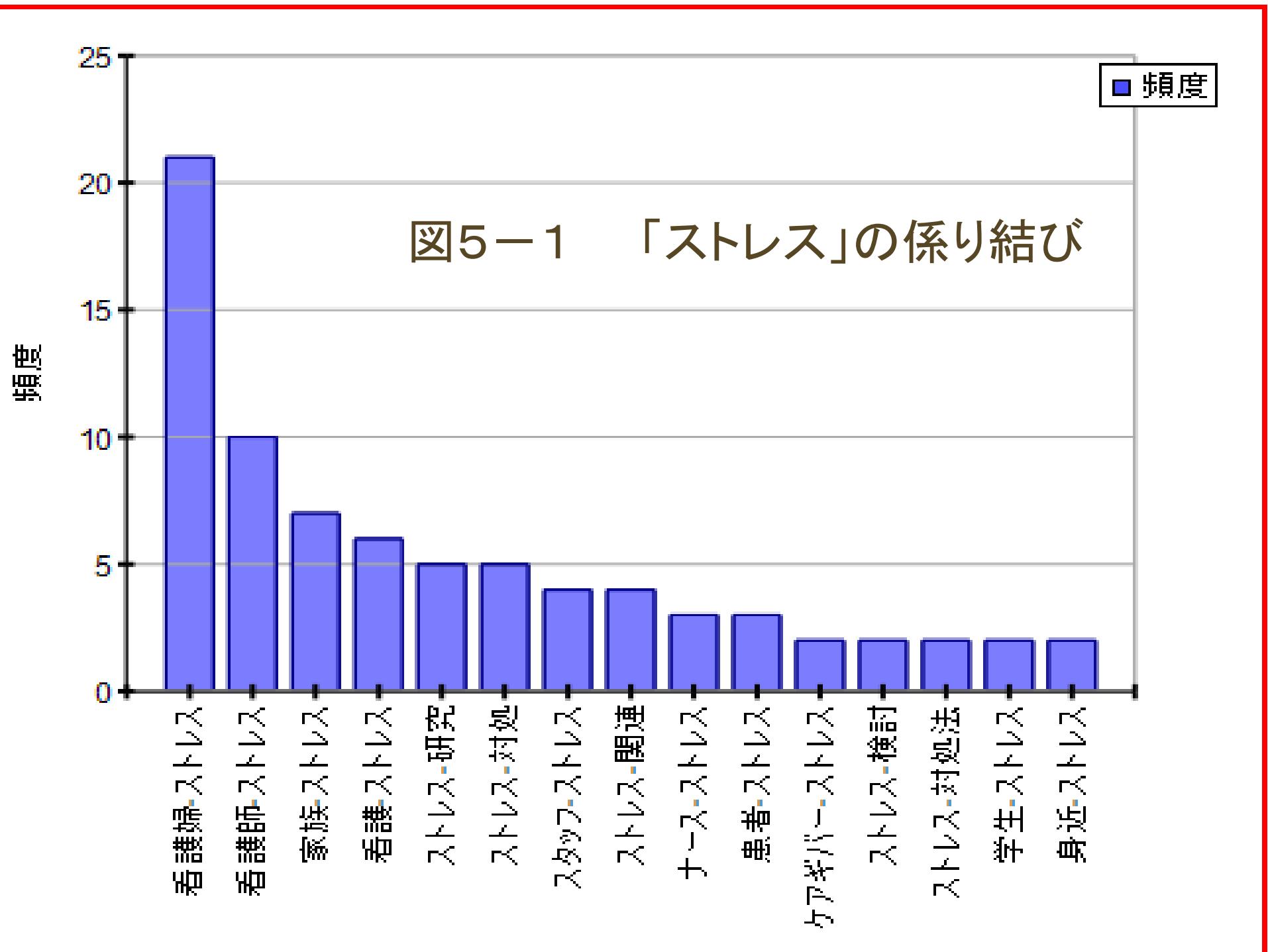
図4-1
ことばネットワーク



◆ 注目語情報

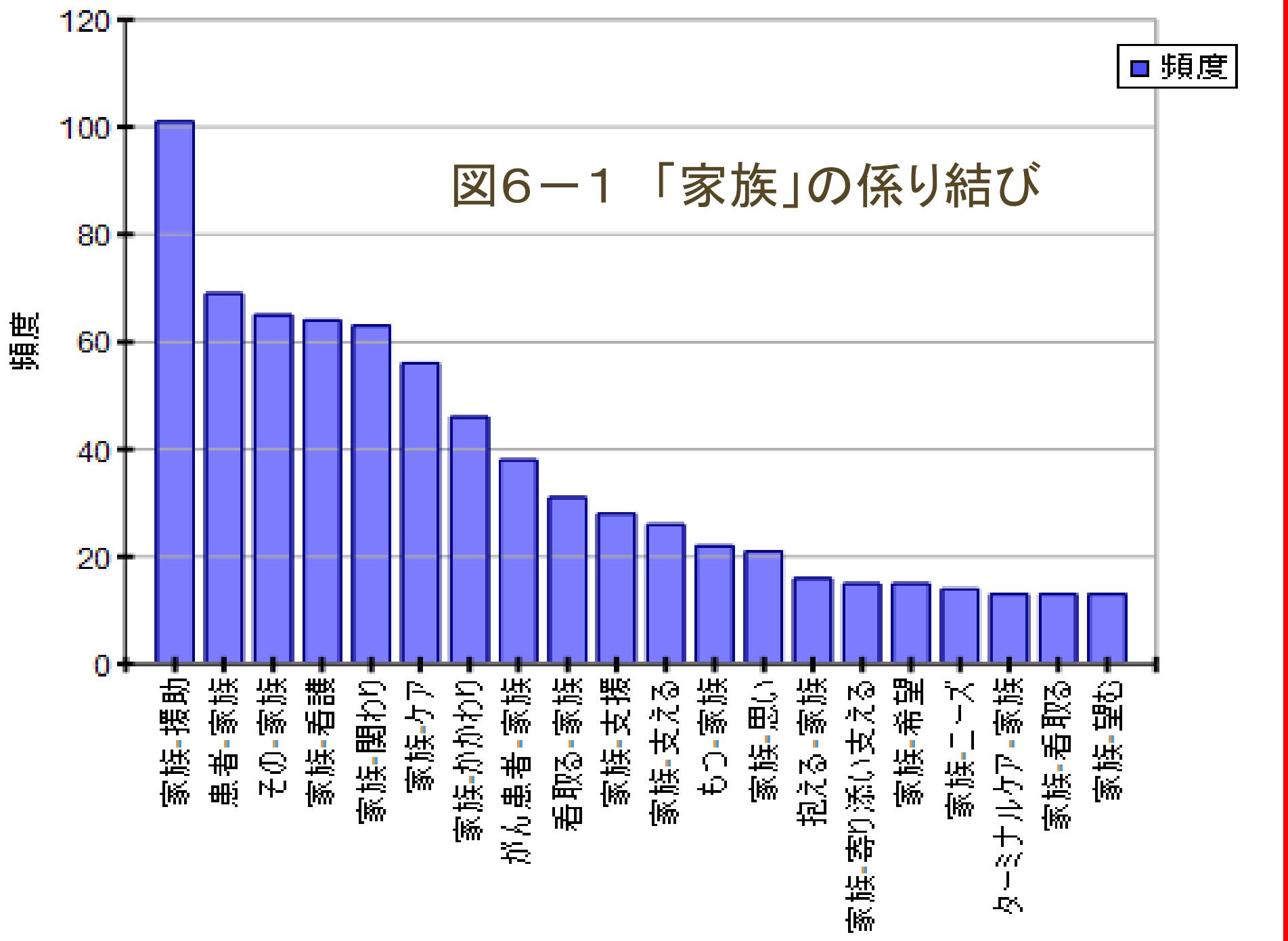
分析条件

- ①各注目する言葉を設定する
- ②オリジナル設定
- ③行単位で共起
- ④最低信頼度60
- ⑤2回以上出現する共起ルールを抽出
- ⑥そのうち上位20件を出力する



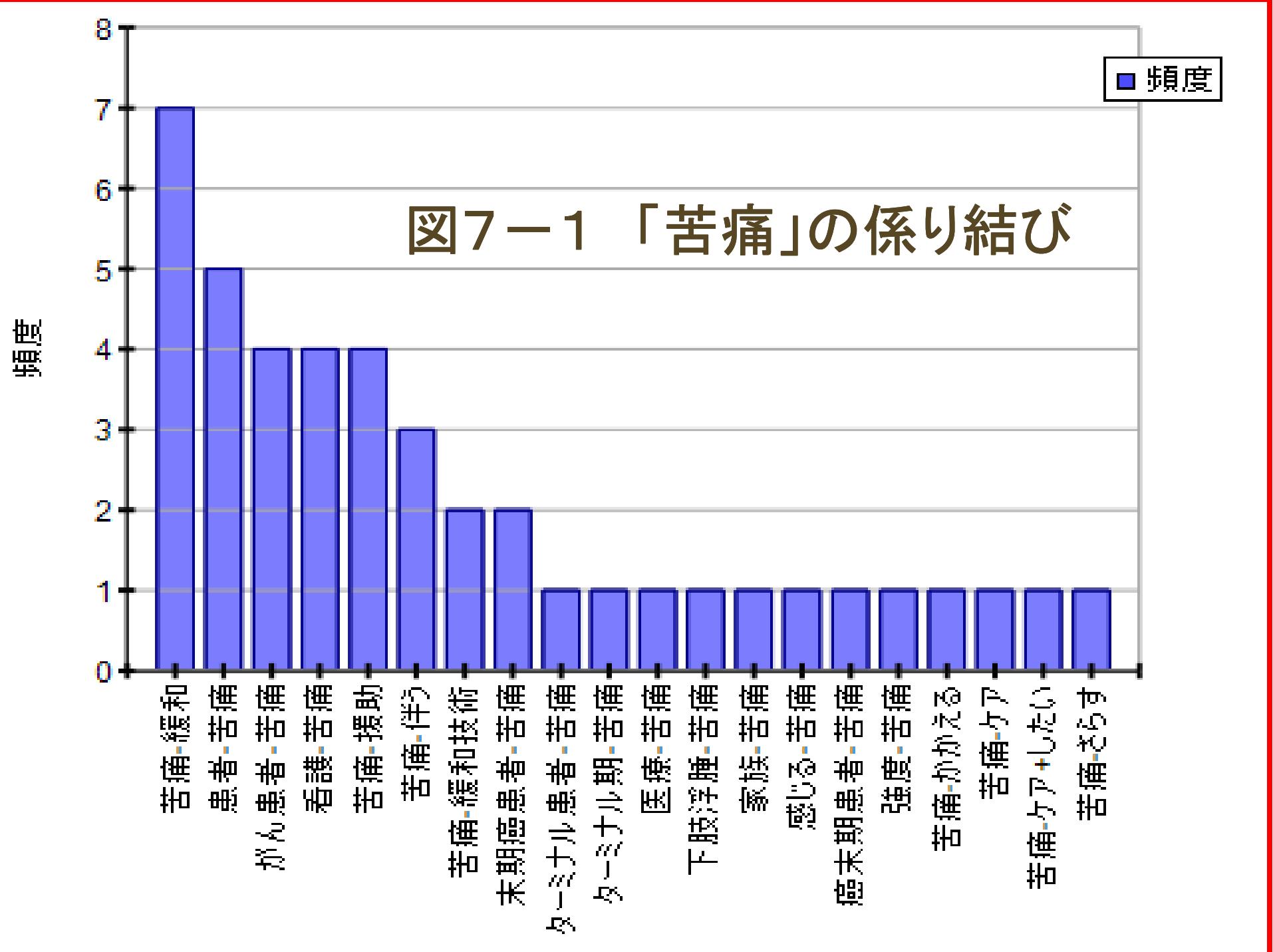


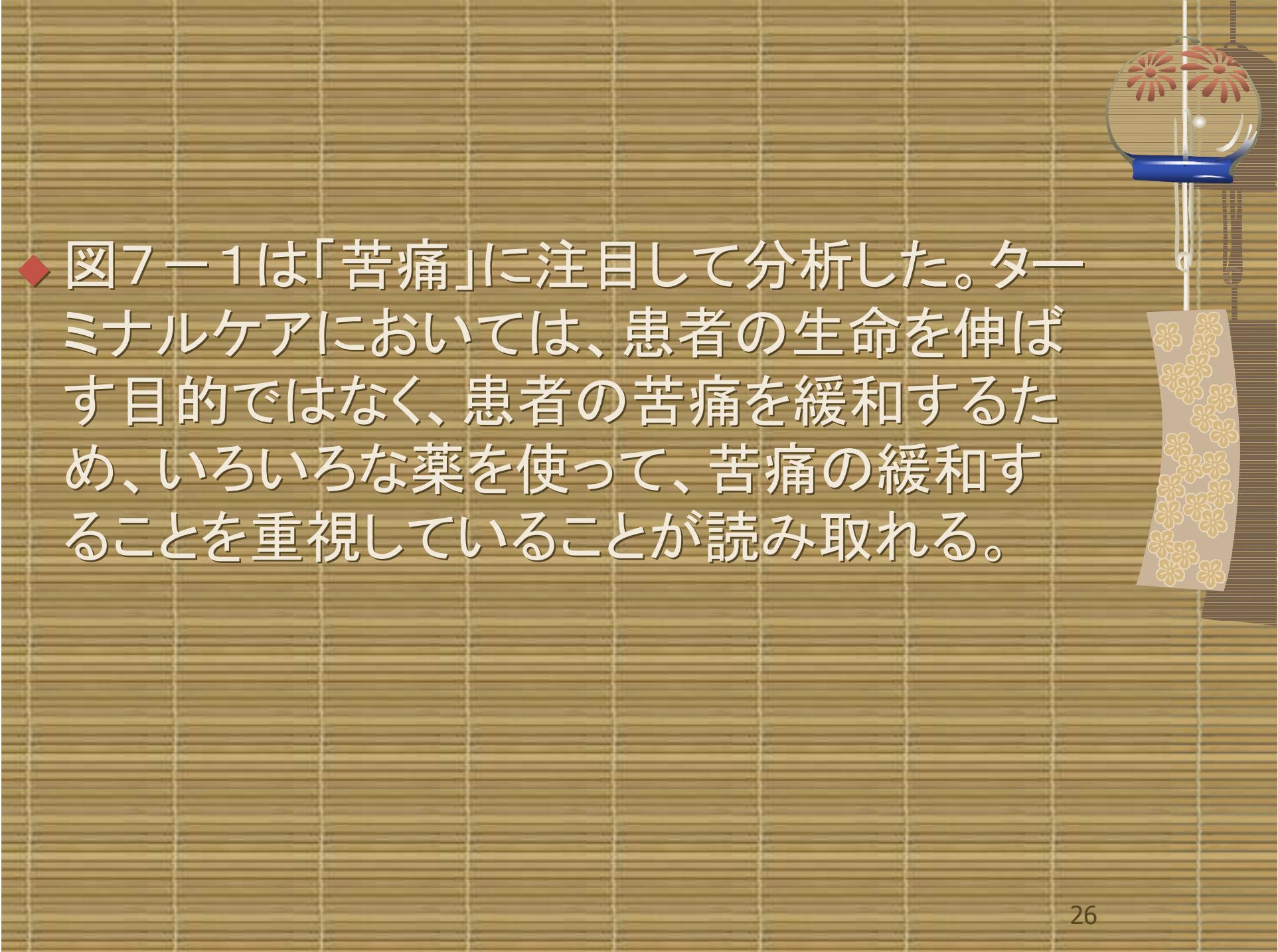
- ◆ 注目語「ストレス」の分析図5－1を見ると、現在は看護師のストレスが最も多い、次は家族のストレス、その次には患者のストレスが見られる。看護師は日々の業務において、他の職種に比べて様々なストレスを抱えやすくなると言われる。職場に入ったばかりの新人や職場の人間関係など、ストレスになる原因が様々に考えられる。





◆図6－1は「家族」に注目して分析した。
「家族緩和」、「家族ケア」、「家族支援」
「家族支える」などの言葉が頻繁に出る。
ターミナルケアとは患者のケアだけではなく、患者の家族のケアも重要なことであると
考えられる。





◆図7－1は「苦痛」に注目して分析した。ターミナルケアにおいては、患者の生命を伸ばす目的ではなく、患者の苦痛を緩和するため、いろいろな薬を使って、苦痛の緩和することを重視していることが読み取れる。

◆ 考察

- 1、研究数の変化を見ると25年間で年々研究数は増加し、2000年代に入ってターミナルケアとホスピスの研究はピークを迎えている。近年下がる傾向が見られるが今後の推移に注目したい。
- 2、看護学におけるターミナルケアとホスピスの研究分野について、ことばネットワーク(図4-1)より、「家族」「苦痛(緩和)」「ストレス」の順に重要なテーマであることが明らかになった。ストレス研究は看護師自身や家族の研究が多くかった。
- 3、ターミナル患者への援助に関する看護研究は、第1に、家族への(社会的な)援助に関するものが多く、次に苦痛緩和という身体的な(医療的な)症状をコントロールする研究が多くかった。またケアする側の看護師や家族のストレスも重要なテーマとなっていた。



◆ 終わりに

末期癌患者にとって、貴重な人生を失うことに直面していることが、心理学的に大変難しいことである。患者によって、臨終前までの要求が苦痛緩和など生理学的な要求、家族とのふれあいなど心理的な要求、介護する家族の側の要求など、いろいろあると思われる。患者に手厚く治療を提供し、心の苦痛と死の恐れを減らし、威厳を守ることは、看護師の責任である。

本研究では、このような実践のための看護研究の取り組みの特徴を明らかに出来た。

研究の傾向が時期毎にどう推移してきたかを明らかにすることが今後の課題である。



◆ 参考文献

- 1、(財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
2001年の調査
- 2、「死ぬ瞬間」キューブラー・ロス著／川口正吉訳
1997年 読売新聞社
- 3、「絵でみるターミナルケア」浅野美知恵編集 2006年 学習研究社
- 4、「ホスピス・緩和ケア白書」ターミナルケア編集委員会 1998年 三論書店
- 5、「護理心理学」蔣繼国著 2004年 人民衛生出版社
- 6、「臨床護理心理学」陳素坤 周英著 2007年 人民軍医出版社

